



地図に残る仕事を

1月30日(金)

職業意識を持ち、今後どのような道に進むのかを考える進路学習の一環として、職業講話が濃南中学校で行われました。地元の建設会社の方が講師となり、生徒らに道路や橋などを作る土木工事のやりがいや魅力などを教えました。

授業の後半には、実際に測量機を使い目標物までの距離と角度を計測。生徒らは初めての測量体験を通して、土木業の楽しさを感じていました。



集中力を欠かさず

2月1日(日)

第25回生活技能コンクールがセラトピア土岐で開催されました。市内9小学校区の3～6年生の児童171人が参加し、ひも通しやリンゴの皮むき、釘打ちなどの全9種目で、日常生活に必要な知識や技術を競い合いました。大勢の観客が見守る独特の緊張感の中、子どもたちは日々の練習の成果を発揮し、大人顔負けの技能を披露しました。



流れる水には近づかない

2月14日(土)

「地域を知り、防災を考える」をテーマとした防災講演会が文化プラザで行われ、土砂災害特別警戒区域(通称レッドゾーン)に住む人や防災士の資格所有者など約80人が参加しました。土砂災害では屋内での犠牲者が多い一方、河川災害などでは屋外で亡くなる人が多いことを例に挙げ、災害の種類によって避難の仕方が違うことを説明。いざという時、どのように行動して減災につなげるかを学びました。



命を守るヘルメット

2月16日(月)

肥田小学校の児童全員と教員に、同校PTAから防災用ヘルメットが贈られました。この日、朝の全校集会の中で贈呈式が行われ、代表児童がPTA会長からヘルメットを受け取りました。「自分の命は自分で守る」という意識を強く持ってほしいという思いを込めて贈られたヘルメットは、児童全員の椅子の下に取り付けられ、今後児童らは、訓練などを通じて正しい使い方を学びます。

夢はきっとかなう

1月23日(金)

一流のスポーツ選手が子どもたちと触れ合う「夢の教室」が、泉西小学校で開かれました。この日の「夢先生」は、ハンドボール元日本代表キャプテンの東俊介さん。全員で協力して課題をクリアするゲームや、高校時代の部活動や日本代表での自身の体験談を通して、子どもたちに「思いやりの心を持つこと」、「夢を持つことの大切さ」を伝えました。



昔遊びで頭もスッキリ

2月4日(水)

肥田町浅野に住む70～89歳、72人でつくる浅野シルバースターズが、浅野公民館で第50回「昭和を語る会」を開催しました。この会は、昭和の思い出を語り合ったり、当時の流行歌を歌ったりすることで脳を活性化させることが狙い。また、おしゃべりのほか、お手玉作りやめんこ遊びなど毎回違うさまざまなテーマに取り組んでいます。

今までの取り組みの中で一番人気は、「自分たちで焼く焼きイモ」だそうです。



お手玉を作る参加者



Voice

50回も続けてこられたのは、みんながこの会でおしゃべりを楽しんでいるから。浅野の高齢者が、ここに住んでいて良かったと思ってもらえるよう、今後もネタがある限り続けていきたいと思います。



全員で合唱